美深町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

美深町の公共交通は、町内を貫通するJR線及び民間バス1路線を中心に、市街地と周辺の集落間の公共交通機関を、民間路線バスの欠損補助や町営バス（スクールバス、福祉輸送）等で確保してきた。

特に、市街地から20キロ離れた農村集落の仁宇布地区は、過去には国鉄美幸線の運行によって地域の足が確保されていたものの、過疎化に伴う廃止に伴い鉄道廃止代替バスがそのあとを担い、美深町の欠損補助によって維持してきた。

しかし、近年では人口の流出や自家用車の普及によって平均乗車密度が2人以下と非常に利用者が少なく、また、ほとんどが高齢者で自宅からバス停が遠いなどの理由から、利便性の向上と経費の圧縮を求められていた。

また、市街地域においては商業者の後継者不足や空き店舗・空き地による空洞化などの複合的要素によって年間販売額の減少など厳しい状況が続いている中で、高齢化の進行による市街地内での短距離移送の需要も高まってきている。

こうした問題の解消に取り組むため、地域公共交通活性化及び再生に関する法律に基づき平成22年3月に「美深町地域公共交通総合連携計画」（以下「連携計画」という。）を策定し、平成22年度から実証運行を開始している。

連携計画における交通サービス構築の狙いは、高齢者や障害者など交通弱者の通院や買い物などの移動を柔軟に確保するための市街地における新しい交通サービス「フレックスバス」の確立、仁宇布線バスのデマンド化による効率化と需要の集約、さらに既存のスクールバス混乗路線の利便性向上などを中心に、公共交通ネットワークを構築することで公共交通の持続的確保と交通空白地の解消を目指したものである。

上記のような背景と連携計画をふまえ、名士バス㈱が名寄－美深恩根内間で運行している恩根内線を「地域間幹線系統」として、市街地「フレんどバス」及び仁宇布線デマンドバスを「地域内フィーダー系統」として本格運行を確立した。

美深町生活交通確保維持改善計画の目標

①仁宇布線デマンドバスの運行　　年間利用者数　目標3,000人以上
②市街地「フレんどバス」の運行　　年間利用者数　目標4,000人以上

地域公共交通の現況

・JR宗谷線（美深駅、初野駅、恩根内駅）
・名士バス（株）（恩根内線）
・　〃　　（仁宇布線デマンドバス）
・スクールバス（恩根内美中線、玉川線、楠・清水線、斑渓・吉野線）
・美深ハイヤー

協議会開催状況

1　平成31年3月19日　第2回協議会開催
　①生活交通確保維持改善計画について
　②平成31年度農村部交通空白地域実証事業及び本格運行について

2　令和2年3月25日　第1回協議会開催
　①生活交通確保維持改善計画について
　②デマンド型タクシー本格運行について
　③自家用有償旅客運送者の登録更新について

3　令和3年1月25日　令和2年度事業評価について書面協議

4　令和3年2月25日　第1回協議会開催
　①令和2年度事業報告について
　②令和4年度生活交通確保維持改善計画について

5　令和4年1月14日　令和3年度事業評価について書面協議

令和３年度事業概要

①仁宇布線デマンドバス　運行
運行事業者：名士バス㈱
運送の区間：美深ターミナルー辺渓ー仁宇布待合所（27.km）
運行本数等：1日5便（7:00、8:20、11:10、14:10、15:50）
運 行 日 数：312日
運 行 回 数：1,373回
運　　賃：美深ターミナルー（辺渓）ー仁宇布待合所
東地区、南地区（5キロ未満）大人：200円、小人：100円
辺渓（10キロ未満）大人：300円、小人：150円
仁宇布地区（10キロ以上）大人：550円、小人：280円

②フレんどバス　運行　　運行事業者：美深町
運送の区間：美深ターミナル⇔美深ターミナル
3エリア、15.8km、停留所数108箇所
運行本数等：1日10便（7:00,8:00,9:00,10:00,
11:00,12:00,14:40,16:10,17:50,21:00）
運 行 日 数：312日　運 行 回 数：1,082回
運　　賃：【普通乗車運賃】大人（中学生以上）：150円、小人（小学生）：70円、障害者等の大人：70円、障害者等の小人：無料、美深町高齢者敬老バス乗車券の交付を受けている者：無料【回数乗車運賃】150円券11枚つづり乗車券（大人）：1,500円、70円券11枚つづり乗車券（小人及び障害者等の大人）：700円

令和3年度事業の実施状況

1）プロセス、創意工夫

○平成２１年度に公共交通活性化・再生総合事業による調査事業を実施、美深町地域公共交通総合連携計画を策定し、仁宇布線バスの見直しおよび市街地バスの運行検討に着手。

＜仁宇布線＞

○公共交通活性化・再生総合事業を活用し、平成22年度に42日間、23年度に159日間のデマンド型実証運行を行った。

○デマンドバス用15人乗りコミューターバス車両購入（H23.10）

○H24.4.1からデマンド型で本格運行に移行。

○H30.11.1美深駅でデマンドバスに乗車できるオリジナル硬券を販売し、観光客の利用促進を図った。

＜フレんどバス線＞

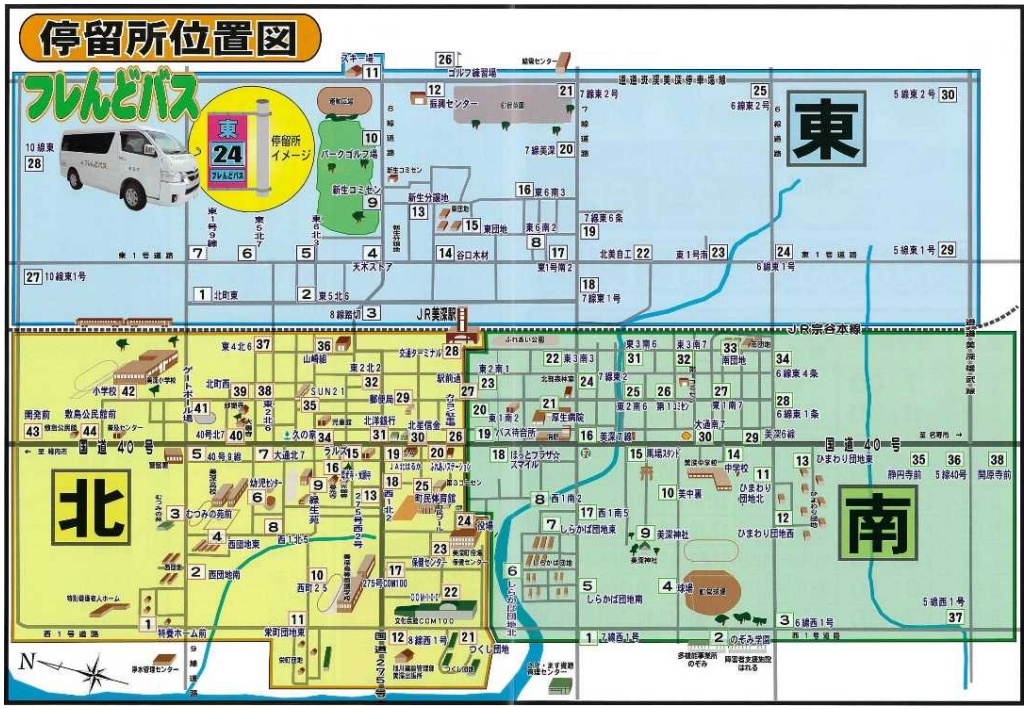
○公共交通活性化・再生総合事業を活用し、平成22年度に48日間路線型、23年度に131日間のデマンド型実証運行を行った。

○デマンドバス用10人乗りワゴン車両購入。（H23.10）

○H24.年度は過疎地域等自立活性化推進交付金を受け、1年間の実証運行と町の賑わいづくり事業に取り組んだ。

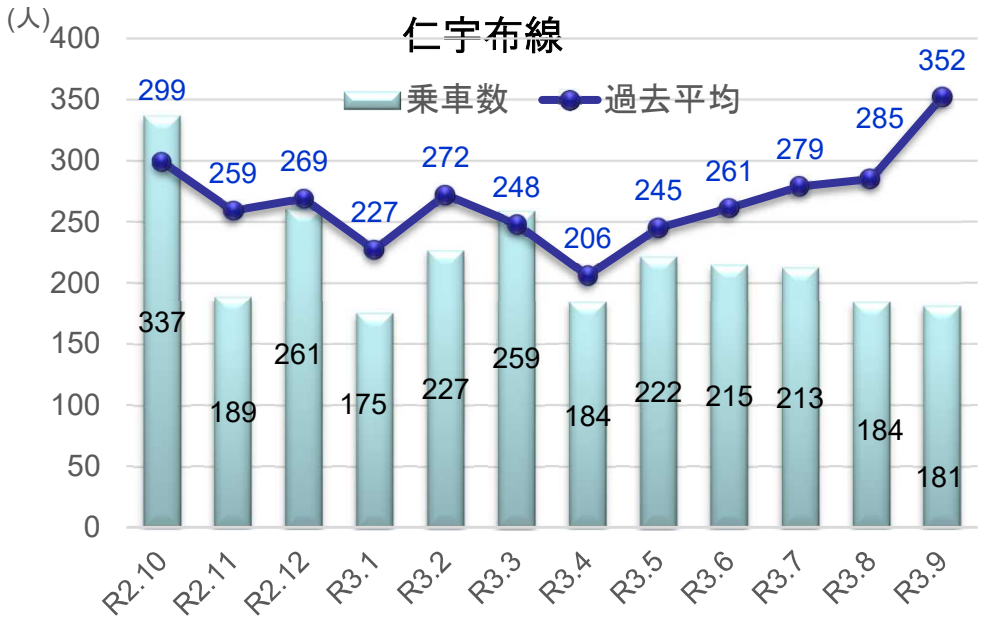
○H25.4.1から愛称を「フレんどバス」としてデマンド型で本格運行に移行した。

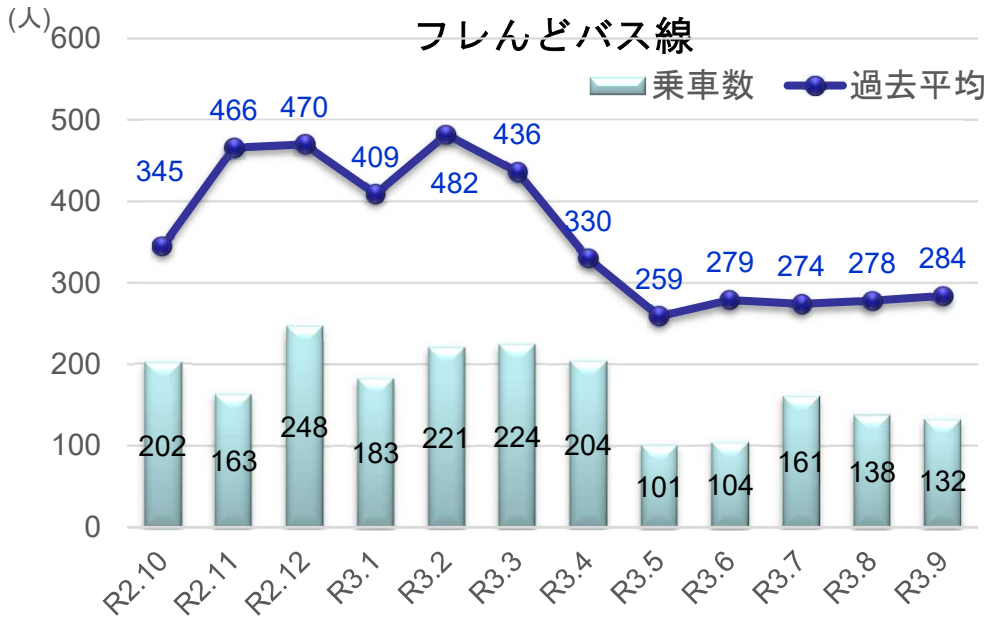
2）運行ルート



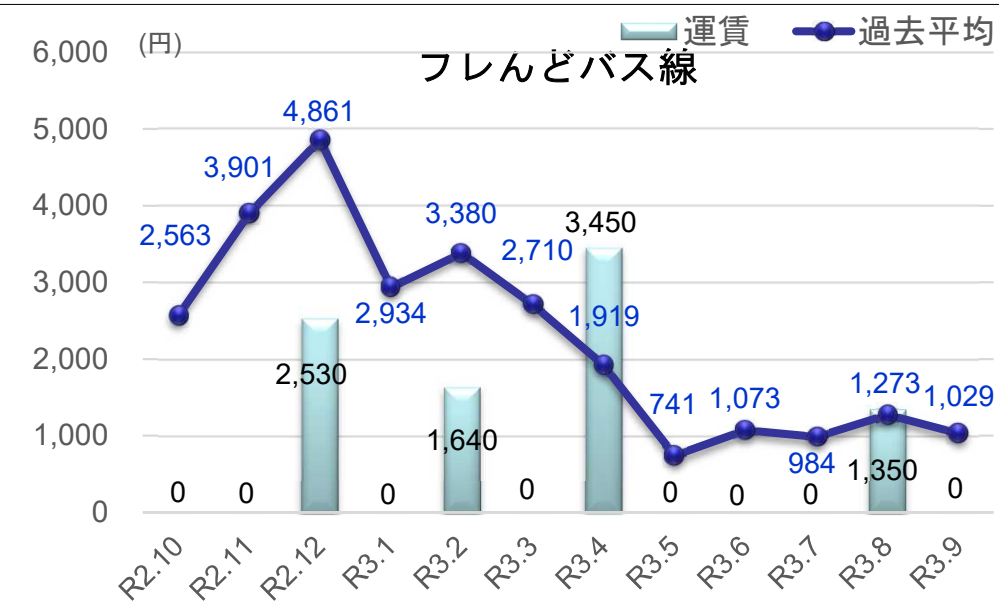
令和3年度事業の実施状況

3）利用実績





4）収入実績



5）事業実施の適切性

事業内容は計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。

6）目標・効果達成状況

＜仁宇布線＞

R2.10～R3.9までの乗車実績は2,647人で、過去の同時期15年間の平均3,201人と比較して17%の減、昨年度対比では1.2%の減となった。主たる利用者は仁宇布地区住民及びトロッコ王国を中心とした観光利用客、農業実習生などであり、年度により増減はあるが、今後の見込みとして利用者数はやや減少傾向になると想定する。しかし、地域公共交通の位置づけとして、特に冬期間は貴重な公共交通手段として地域住民の利用ニーズは高いものがある。

令和3年度の年間乗車目標を3,000人に設定しており、達成率は88%となっている。

＜フレんどバス線＞

R2.10～R3.9までの乗車実績は2,081人で、1日あたり6.6人/日である。前年度の平均10.0人/日と比較して-3.4人、34%減となった。

高齢者の利用が全体の約97%を占め、通院、買い物などの日常の足として利用が定着してきている。

令和3年度の年間乗車目標を4,000人に設定しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により乗車数が減少した。

7）事業の今後の改善点

＜仁宇布線＞

効率的で利便性の高い運行によって幹線(恩根内線)とのネットワークを維持し、仁宇布地区の住民には必要不可欠な足としての定着が見られるが、住民の利用は頭打ちである。しかし、当該地域は美深町の主要観光資源が存在する地域であり、観光客の呼び込みによる利用者の増が期待できる。引き続き、観光PRを強化し、バス利用者の増加を図ることで、安定的な地域公共交通網の形成、地域の活性化に繋げていく。

＜フレんどバス線＞

効率的で利便性の高い運行によって幹線(恩根内線)とのネットワークを維持し、市街地における住民の必要不可欠な足として定着した。運行区域の拡大によってさらに利便性向上と地域活性化にもつなげたい。

また、広報等で利用促進を図るＰＲ活動を行い利用者増を図りたい。

8）地方運輸局における二次評価結果

（令和4年度分と併せて評価）